

(様式 12)

氏名(本籍) 佐野 哲文(富山県)  
学位の種類 博士(歯学)  
学位記番号 甲 第326号  
学位授与日 2016年3月14日  
学位授与の要件 博士の学位論文提出者(学位規程第11条第1項該当者)  
学位論文題目 上顎前歯部埋伏過剰歯が上顎中切歯の位置と歯軸傾斜に及ぼす影響について

論文審査委員 (主査) 教授 嶋田 淳  
(副査) 教授 渡部 茂  
(副査) 教授 村本 和世  
(副査) 教授 須田 直人

### 論文内容の要旨

埋伏過剰歯は、上顎中切歯の歯列不正や形成障害の一因となることが知られている。しかし、埋伏過剰歯が隣在歯の位置にどのような影響を及ぼすかについての検討は不十分である。そこでこの点を、CBCT画像をもとに統計学的に検討した。

対象は、平成25年10月から平成26年10月までの間に、上顎前歯部埋伏過剰歯と診断された平均年齢6歳3か月の小児33名の33歯を用いた。

評価項目として、埋伏過剰歯の歯軸方向や垂直的位置、中切歯歯軸傾斜角度、埋伏過剰歯と中切歯間および埋伏過剰歯と口蓋部骨表面間の距離を検討した。

埋伏過剰歯の垂直的位置は、上顎歯槽骨頂から鼻腔底下縁最上方点と最下方点を結ぶ直線(以下、鼻腔底下縁線)までの距離を3等分し、鼻腔底下縁線から上位、中位、下位の各々の範囲1/3をPosition 1, 2, 3として評価した。また、埋伏過剰歯に近い上顎中切歯を患側中切歯、反対側の中切歯を健側中切歯とした。矢状面断における鼻腔底下縁線を基準線とし、患側または健側中切歯の歯軸となす角度を各々患側・健側中切歯歯軸傾斜角度とした。

埋伏過剰歯は、逆性と順性が各々22例と11例であった。患側中切歯歯軸角度と健側中切歯歯軸角度の間には、有意な差があった。一方、患側と健側の中切歯歯軸傾斜角度の差は、埋伏過剰歯の垂直的位置を表す各Position間で、有意な差はなかった。

埋伏過剰歯と中切歯間の距離は、埋伏過剰歯がPosition 2に存在する例と比較してPosition 3に存在する例で有意に大きかった。また埋伏過剰歯と口蓋部骨表面間の距離は、埋伏過剰歯がPosition 1に存在する例は他のPositionに存在する例より有意に大きかった。

以上の結果より、埋伏過剰歯は中切歯に対して影響を与えるが、その垂直的位置により影響の大きさには差がないことが示唆された。

### 論文審査および試験結果の要旨

本論文において、埋伏過剰歯によって引き起こされる近接した上顎中切歯の歯軸傾斜が過剰歯の垂直的埋伏位置や、埋伏過剰歯と近接する中切歯の距離や口蓋部骨表面との距離に関して相関性がないことが示された。

明海大学大学院歯学研究科歯学専攻 佐野 哲文に対する最終試験は2015年12月25日、主査 嶋田淳教授、副査 渡部 茂教授、村本和世教授、須田直人教授の4名にて行われた。論文審査並びに専攻学術に関し、口頭試問をもって実施し、合格と認めた。また、佐野哲文の語学試験は大学院入学試験の外国語試験の結果をもって合格とした。よって申請者佐野哲文の本論文は、博士(歯学)の学位論文に値するものと判断した。